

第二節 学力向上と進学成果への期待と熱気

一 野沢北高への期待

創立百周年

二〇〇一（平成一三）年、野沢北高は旧制野沢中学校以来の創立百周年を迎える年度だった。数年前から生徒や職員は、ことあるごとに「野沢北高校創立百周年」を意識した。

この年七月に開催された日輪祭は「創立百周年記念祭」として行われた。また当時の新津真澄（三五回卒）岳南会長は「・・・母校が佐久を拠点として、教育の源流となる責務がある・・・これからの新しい歴史の営みの中で、独自に高い理想を掲げて躍進発展することを願ってやみません」とし、吉田茂男（六〇回卒）学校長は「我が校にとつての貫く棒とは、諸先輩から脈々と伝わる文武両道・自主自律の校風そのものであり・・・健全な野沢北ミーム（生物学者ドーキンスの造語（筆者注）の継承と創造・発展に職員・生徒一丸となって努めて行きたい」と野沢北高のあり方や未来への期待を『岳南會ニュース第12号』で披瀝している。

この時期の野沢北高がどのように意識され、とらえられていたか、また地域における立ち位置はどのようなものだったかを示している。自主的精神にみちた人格の育成をはかり、佐久地域の伝統校として、学力と進学実績のさらなる向上を期待されていた。

野沢北高を取りまく環境の変化

一九九四（平成六）年理科数の開設が野沢北高に様々な影響を与えたことは、前節で述べられたとおりであり、とりわけ進学実績向上に顕著であった。理科数新設を梃子として普通科を含めた進学実績・学力・教育力の向上をはかるうとする気運の高まりが、一九九六年度以降の進学実績の大きな伸びをもたらしした。

一方でこの時期は、長野県の高校教育に関わる、入試制度の大きな改定がすすめられていた。前節でも触れているが、制度の変遷については第八節に詳しいので、ここでは概略を確認しておく。

・一九八九（平成二）年、長野県の「高校学力低下問題」が議論され、その議論の過程で、一九九五年には「パーセント条項」が導入・実施された。

・二〇〇一年、野沢北高校創立百周年のこの年、県は通学区制見直しを本格的に開始し、通学区の流動性が一層高まることが懸念された。

・二〇〇四年、一二通学区制度は四通学制度に移行し、野沢北高にとっての危惧は現実のものとなった。佐久地域の生徒が新幹線を使い長野地域に通学する事例も出ている。

さらに、他の通学区の「地域トップ高」とは異なる事情が本校にはあった。パーセント条項施行と同じ年、佐久地域の私立中高一貫校が募集を開始し、佐久地域中卒生の「青田買い」が進むのではないかと懸念が職員の間ひろまった。地域の伝統校・進学校の地位をどう守り発展させるかが最大の課題として意識された。

創立百周年と重なる時期に、野沢北高内外で、学力と進学実績向上の期待はたかまっていた。単に大学進学実績をあげるのではなく、「真の学力」とは何かを問いつつ、その学力を「受験学力」向上につなげ、結果として進学実績を伸ばすべきであるという認識に収斂していった。

二 二〇〇〇年前後からの進路指導

教科指導

「真の学力」と「受験学力」をどのように調和させるかの議論と同時並行で、学力向上と進学実績向上のための具体的な方策が、各教科・分掌・職員全体で検討され、着手可能なところから取り組まれていくことになる。具体的な取り組みをみてゆく前提として、二〇〇〇年代に入った時期の大学入試全般を概観しておきたい。

大学入試センター試験（二〇二二年から「大学入学共通テスト」にかわる。センター試験と略記）の比重が、国公立大学はもちろん私立大学入試でも次第に大きくなっていった。センター試験の成績と各大学実施の二次試験（＝本試験）を合わせて入学の可否が決定される。受験生はセンター試験で志望する各大学・学部（学部）の合格に必要な成績をあげられるようにし、さらに大学・学部ごとに実施される二次試験に臨む。私立大学でも何らかの方式でセンター試験の成績が使われる。

センター試験は英語・数学・国語・理科・社会（地歴・公民）ごとに、マークセンス方式で答え、国公立大学受験志望者の多くは五教科を受験する。受験生は広く五教科の基礎的な学力・知識を確実に持つことが求められる。そのための学習に注力しなければならない。さらに二次試験は、受験する大学・学部が指定する教科・科目の試験が課される。深い知識と学力を問う試験に、記述や論述あるいは口述で答えられる学力と知識を習得しておく必要もある。

各教科の指導には、生徒に広くかつ確実な学力と、深い知識と思考力をつけておくことが求められた。進学実

績向上は、各教科で必要な受験学力をつけることが大前提であり、それを基盤として学校としての進路指導運営の方向性や統一性が意味を持つ。

学力の向上は、まずは各教科の指導理念・指導方法によるだろう。

「野沢北高の生徒は膨大な英語教材をこなし、県下一早い数学の学習進度についていっていると当時よく耳にした」と、二〇〇五年野沢北高校卒業生の保護者（当時県下県立高校教員）は証言している。それぞれの教科が、学力向上にどのように取り組んだのかを簡単にみておく。

英語

当時担当していた、蒔田芳明（七〇回卒）・徳田稔（七三回卒）からの資料をもとに、英語科の取り組みをみておく。

- ・各学年担当責任者により年度末に総括し、三年間を見通した学習内容・計画を共有した。学年間の引継ぎがスムーズに行われていた。

- ・二年次末までに高校英語（＝大学受験）の基礎を終える。

- ・毎時、授業の初めに次のいずれかを実施（六五分授業なので一五分ドリル演習の余裕があった。「単・熟語」「英文法・語法」「構文」の小テスト、「速読」、「教科書本文音読暗唱」「リスニング」。

- ・二〇〇点満点の定期考査により、学習範囲を網羅して出題できる。

- ・英文の多読奨励。一・二年次に、月一冊のサイドリーダーを読む（二〇〇六年入学生用のサイドリーダー「一覧表を掲げておく）。ただ渡すだけでなく「教師による帯文」と、生徒からの簡単な感想文を出してもらったり数値化してもらい、難易度・面白さなどを毎回確認して次の教材選択に活かす。生徒の力で読み切れるレベルで、達成感を持てる教材選びにつとめた。

数学

「理数科開設前後の数学科の指導の特徴は、一年次は慌てず中学校レベルからの基礎復習から始めた。どつしりと構え、自主教材のプリントを使用し丁寧な教科指導を心がけた」と柳澤英夫（七一回卒）は回想する。

数Ⅰ・A、数Ⅱ・Bを早く履修し終えて、三年次の授業ではセンター対策の演習に時間をとれるよう、次第に学習進度を速めた。

高校入学時と比べ、校外模試の数学の偏差値は大きく伸ばしてはいるが、センター試験での得点に余裕を持たせるには足りない生徒をなんとかなくすため、教科内での模索と試行錯誤が続けられた。

二部屋に分かれている数学研究室は、昼休み時間と放課後は常に質問待ちの生徒であふれる情景は、今も変わらない。生徒の質問対応を大切に、丁寧な個人指導をするため、放課後の班活指導がままならないのが数学科

サイドリーダー1年	
〈2月 The Blue Diamond	(Oxford数研) 理数科推薦内定者)
4月 The Missing Coins	(Penguin桐原)
5月 Hoshino Michio	(数研)
6月 The Elephant Man	(Oxford数研)
7月 火垂るの墓	(三友社)
8月 TITANIC	(Z会)
9月 ギリシャ神話	(桐原)
10月 O.HENRY Three Short	Stories (桐原)
11月 Ryuhei	(桐原)
12月 猿の手	(Oxford数研)
1月 Walkabout	(Penguin桐原)
2月 Past Promises (旧約聖書)	(山口)
3月 Hana's Suitcase	(三友社)
3月 6000人の命のビザ	(杉原 千畝) (三友社)
サイドリーダー2年	
4月 フランケンシュタイン	(桐原)
4月 THE DEATH OF KAREN	SILKWOOD (Oxford)
5月 オリピック	(数研)
6月 オードリー・ヘプバーン	(啓林館)
7月 ハイサイ沖繩	(桐原)
8月 白旗の少女	(山口)
9月 サイレントスプリング	(レイチェル・カーソン)
	(三友社)
11月 シャーロック・ホームズの冒険	(英潮社)
12月 クリスマス・キャロル	(Oxford)
1月 アニマル・ファーム	(美誠社)
3月 キング牧師	(PENGUIN)

教師の悩みであった。

授業開始時の三分ドリルは有効な指導法だと、白石克典（七五回卒）は考えている。ドリルの出来具合で生徒の理解度をチェックし、次の授業内容を組み立て直すこともある。理数科生徒の希望者には「週末課題」を渡し、週初めに提出された解答を添削して返し実力を伸ばすことも行ってきた。普通科の生徒にも声をかけ、多数参加しており、生徒からは好評である。

国語

「基礎的な学力をつけるため、授業重視に徹していた。受験に必要な学力をつけるために、適切な教材や課題を精選し、夏期休業・冬期休業期間には課題を増やした。こうした対策は特別なものではなかった。国語の受験学力向上は基礎学力を確実につけることであり、そのために生徒が授業に集中できることを第一とし、授業中心主義に徹した。受験対策を強く意識する三学年になっても四月・五月の授業までは、一学年で学習した古典文法を再度復習し、基礎学力の再確認を生徒に強く意識させた」と、小須田正樹（七一回卒）は述懐する。


二次試験では小論文が課される傾向が強くなってきていた。課される小論文の課題は大学・学部・学科ごとに異なり、人文系・社会科学系・理学系・工学系・医療福祉系など多種多様になるため、指導も多岐にわたる。本校では一九九一（平成三年）小論文対策チームにより、作成され使用してきた『小論文学習の手引き』（大熊剛彦（二六

数学1ドリル No. 11 ()組 ()番氏名()

① a は定数とする。関数 $y=3x^2-6ax+2$ ($0 \leq x \leq 2$) について最大値を求めよ。

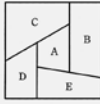
理数科 数学【週末課題】 009 提出期限 11月20日(火)

② 右の図を一筆でかく方法は何通りあるか。



()組 ()番氏名()

③ 5色の紙の裏を使って、右の図のA～Eを塗り分ける。
次の場合、何通りの塗り方があるか。
(1) 5色すべてを使う場合
(2) 同じ色を何回使ってもよいが、隣り合う部分は異なる色とする場合



授業開始時のドリル・週末課題